

教えて！外務省 / 知っておきたい国際協力 Vol.14

日本とASEANが友好関係を深めるきっかけになっている「JENESYS」。そこでは何が行われ、どのような成果が出ているのでしょうか。

今月の
テーマ

ジェネシス
JENESYS



答えてくれた人

アジア大洋州地域協力室／
大臣官房対日理解促進交流室 室長

高水英郎さん
TAKAMIZU Hidero

1994年外務省入省。総合外交政策局国際安全・治安対策協力室、大臣官房文化交流・海外広報課、在ハンガリー大使館などを経て、2022年より現職。ASEAN諸国などで日本理解を進める青年交流事業「JENESYS」を担当。

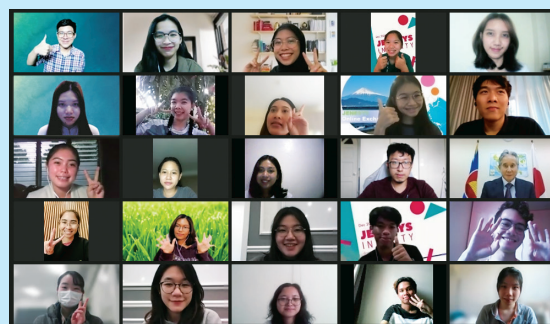
Q 「JENESYS」って何ですか？

A 日本とアジア大洋州地域の間で行われる 青年交流事業 です。

JENESYS (Japan-East Asia Network of Exchange for Students and Youths) とは、外務省が推進する対日理解促進交流プログラムのなかでも、日本とASEAN地域を中心とするアジア大洋州地域との間で行う青年交流事業を指します。さまざまなテーマについて専門的な知識をもっていたり、学んでいたりする10代から30代くらいまでのアジア大洋州地域の青年を日本に招聘し、10日ほどの間で座学や視察、交流などを行うのがおもな活動です。反対に日本人の青年をアジア大洋州地域に派遣することもあります。

視察や交流を通じてアジア大洋州地域の青年に日本への知見を深めてもらい、将来の日本の応援団になってもらうのが大きな目的です。また参加者の多くはプログラム中と終了

コロナ禍ではオンラインで実施。「Research for the synergy of FOIP and AOIP」をテーマにしたプログラムでは、日本とASEANを中心にした大学生約130名が参加した。



©一般財団法人日本国際協力センター (JICE)

後、SNSなどを通じて日本についての情報を発信してくれます。そのためボトムアップの形で国同士の良好な関係づくりにもつながると考えています。

本事業のきっかけは、2007年から2012年に実施した「21世紀東アジア青少年大交流計画 (JENESYS Programme)」と、2013年から2015年に実施した「JENESYS2.0」などの青

少年交流です。2007年から2023年3月までに、ASEAN諸国から約3万6,000人の青年が日本を訪れ、日本人青年約3,000人がASEAN諸国を訪問しています。また、コロナ禍ではオンラインの交流やプログラムも開始しました。その参加者も合わせると、これまでに日本とASEAN間で合計約4万7,000人の青年が、JENESYSを経験していることになります。

Q ASEANの訪日団は、プログラムでどんなことをするの？

A テーマに合わせて座学や視察、意見交換などを行い 専門的な知識と日本の知見 を深めていきます。

日本に招聘されたASEAN諸国の青年は、オンラインによる事前学習を含め10日間程度、日本に滞在します。プログラムのテーマに合わせた専門家による講義の聴講、関連する研究機関や企業への視察、日本人関係者との意見交換やワークショップなどが行われます。さらに、訪問地の歴史・文化視察、学校や教育機関などでの同世代との交流、日本人家庭でのホームステイも実施。多角的に日本を体験し知見

を深め、日本人とのネットワークを築きます。

2022年度は、日本語・日本文化、政治、社会（自由で開かれたインド太平洋 [FOIP]、SDGs、平和構築、女性の活躍など）、技術開発（環境、エネルギー、水産業、農業など）といった分野で91件のプログラムを実施しました。ASEAN諸国の青年からは、「学んだことをできるだけ多くの人々に広めていきたい」「日本との友好関係の発展に貢献したい」という声も挙がっ

ています。実際に参加者はプログラム中に得た学びや、訪問先の地域や企業の魅力、日本と自国との生活や風習の相違点についてSNSを通じて母国語で伝えていました。こうした情報発信は、各国で日本への関心を促しています。また、帰国後は、自主的に所属先での報告会を開いたり、日本の文化行事を行ったり、日本語学習のワークショップを計画・実施してくれたりしています。

Q 日本ASEAN友好協力50周年を迎える2023年は、どんなプログラムを展開するの？

A 日本とASEANの 今後10年を見据えた 多くのプログラムを実施・計画しています。

2023年は、日本とASEANが深い信頼関係で結ばれた「心と心のパートナー」としてこの50年で培ってきた友好関係を再確認し、今後10年先の未来につながるプログラムを行っていくことが大切だと思っています。

この思いを反映させた、「日本ASEAN開発協力の歩みを知るための招聘（1月、約100名）」、観光、インターネット、農業、労働、都市開発を課題とした「日本ASEAN大学生コースリーダーの招聘（2月、約110名）」、「日本とASEANの高校生交流の招聘（7月、約90名）」などがすでに実施されました。さらに大きなものでは、沖縄県で3月に開催された日本ASEAN友好協力50周年記念認定事業「JENESYS U-17 Women's Football Memorial Cup」があります。ASEAN諸国でも人気の高いサッカーを通じた交流行事で、U-16日本女子代表と沖縄県うるま市選抜U-17を含む合計12チームが6日間にわたり、交流・親善試合で熱戦を繰り広げました。試合後、元「なでしこジャパン」の澤穂希さん、宮間あやさんを講師としたサッカー

交流も行われ、日本とASEANの友好が深められました。今年12月には、「JENESYS2023 日本・ASEAN学生会議」も予定されています。

JENESYSが始まって16年が経ちました。本事業の同窓生は、日本へ留学したり、日本語教師になったり、日本と関係する仕事に従事したりと、さまざまな形で日本とのつながりを維持し、活躍しています。現在のベトナムの首相や、マレーシアのデジタル大臣もJENESYSの経験者です。目を輝かせてプログラムに参加する多くのASEAN諸国の青年の

姿を見て、確かな手応えを感じています。21世紀の日本はASEANとともにあります。そのなかでよりよい友好関係を築くためには、若い世代の人たちがおたがいを知ることが重要です。ぜひ、みなさんにもASEANの若者とさまざまな形で交流してもらいたいです。



JENESYSについて

最新情報や関連情報については、外務省のウェブサイト(左のQRコード)をご確認ください。



©一般財団法人日本国際協力センター (JICE)



©一般財団法人日本国際協力センター (JICE)

左：平和構築がテーマのプログラムでは、広島平和記念資料館を視察したり、被爆者から話を聞いたりした。右：インドネシアの高校生が宮崎県を訪れ、学校の交流のなかで日本の高校生と書道を体験。

©一般財団法人日本国際協力センター (JICE)



日本ASEAN友好協力50周年記念認定事業として今年の3月に沖縄県で開催された「JENESYS U-17 Women's Football Memorial Cup」の様子。